

Faculty of Geo-Environmental Science

地球環境科学部

フィールドワークとアクティブラーニングを重視する地球環境科学部には、学年・学科・ゼミの垣根を越えた「学生研究プロジェクト」という取り組みがあります。学生が主体的に課題を決め、フィールドワークに根ざして解決する研究に、1グループあたり最大20万円を助成。発想力と行動力を発揮して、フィールドの学びに出かけてみませんか。

▶ 環境システム学科 生物・地球コース / 気象・水文コース

▶ 地理学科

学部データ

学生数	教員数	就職率
709名	37名	94.9%



地球環境科学部ホームページもご覧ください。
ris-geo.jp/admission/

身近な問題が起きた時に、行動を起こせる人になれるか。

かつていた動植物がいなくなる、大雨や酷暑等、異常気象が起こる、地元の商店街が消える、夏祭りや縁日が小規模になる。皮肉なことに、私たちは環境が「悪化」することで初めて、意識や関心を高めることができます。自分たちの身の回りで、一体何が起きているのか。その危機意識こそが、当学部での学びの出発点。温暖化の問題においても、気象学だけを学べば阻止できるものではありません。人間の行動を、社会のあり方を、広く見渡した上で、みんなが笑顔で暮らせる未来を見通していく。誰かの幸せを願う想いを、知識や活動につなげてみませんか？

地球環境科学部長 須田 知樹



Point 1

5つの分野を幅広く、かつ専門的に学べる。

さまざまなアプローチで環境問題に挑む

環境システム学科では、地球環境に関する諸問題について科学的視点で問題の本質を捉えることができ、「持続可能な社会」の形成に貢献できる人材の育成をめざしています。その目的を達成すべく、環境生物学、環境地学、環境気象学、環境水文学、環境情報学の5つの学びの分野を設定しています。



1 環境生物学

人類が他の生物や生態系に与える影響を明らかにし、人類と生物が共存するための方法を考えます。

学びのキーワード | #動植物の保護・管理 #生態系の保護 #海洋生物 #DNA

2 環境地学

さまざまな要因で形成される地球の地形・地質の特徴の歴史を解明し、現在の現在・近未来の活用や防災等について考えます。

学びのキーワード | #岩石 #地形 #地質 #災害 #考古学

3 環境気象学

人や生き物の活動、水や地面の挙動に影響する、大気さまざまな振る舞いを科学的に理解し、環境問題を考えます。

学びのキーワード | #気象予測 #気候変動と人間活動 #気象観測データの取得と解析 #異常気象

4 環境水文学

水不足や水利用、水質汚染等の問題を水環境や水循環の視点から科学的に理解し、環境問題を考えます。

学びのキーワード | #水循環 #河川水 #地下水 #湖沼水 #水質汚染

5 環境情報学

自然的・社会的要素を含む広い視野を学び、地理情報システム(GIS)、プログラミング等の環境データサイエンスによって問題の解決策を考えます。

学びのキーワード | #地理情報システム(GIS) #リモートセンシング #環境データサイエンス

以上5つの分野を同時に学ぶことができ、それぞれの分野に4~5名の専任教員が在籍している学修環境は、立正大学の強みです。さらに環境生物学・環境地学・環境情報学を中心に学ぶ「生物・地球コース」と、環境気象学・環境水文学・環境情報学を中心に学ぶ「気象・水文コース」の2つのコースが設置されており、入学時にどちらかのコースに所属。4年間で、基礎から専門・応用へと段階的に知識・技術を身につけます。

Point 2

環境問題を本気で解決するためのカリキュラム。

“これから”の環境問題を考える

環境問題の本質を理解するには、「環境をシステムとして捉える」ことが重要となります。そのために必要となる複数分野の知識、問題に対する多角的な視点を養うために、本学科では所属するコースに関わらず、学科で開講されている科目はすべて受講可能。主専攻分野の専門知識を深めつつ、隣接分野を含む幅広い知識を身につけた、「環境のエキスパート」養成をめざしています。



時代に適したスキルを習得する

現代社会は多種多様な情報にあふれており、情報通信技術(ICT)を扱うスキルは必要不可欠。これは環境科学の分野でも例外ではありません。本学科では2つのコースどちらに所属していても、環境情報学を専攻に選ぶことができる体制に。プログラミングやリモートセンシング等の授業を通じて、さまざまな環境問題に対して高度な情報技術を駆使しながらアプローチできる人材育成をめざしています。



カリキュラム

卒業基準単位数: 126 教養的科目: 28 専門科目: 98

※2024年4月1日入学者の場合。

		1年次	2年次	3年次	4年次
		環境科学の基礎を学ぶ 学びの土台となる数学、理科、情報の基礎を学修。各分野の概論で専門分野も深めます。	さまざまな視点で専門科目を学修 「専門基礎科目」では自然科学、複数の基礎を学修。各分野の概論で専門分野との関連、実社会との関係を学びます。	卒業研究に向けスキルを磨く 研究室で、各分野の専門的な調査方法やデータ処理手法、解析、考察の仕方等を学びます。	4年間の集大成卒業論文を執筆 テーマを決定し、卒業研究に取り組みます。教員の指導の下、計画立案から調査、分析を行い論文を執筆します。
必修科目	生物地球コース	・生物と大地の科学 ・環境生物学概論 ・地圏環境学概論	・フィールドワーク ・空間情報システムの基礎 ・環境統計学	・セミナーの基礎 ・セミナー	・卒業研究指導(卒業論文含む)
	気象・水文コース	・環境調査の基礎および実習 ・基礎数学 ・基礎物理学 ・基礎化学 ・基礎生物学 ・基礎地学 ・環境情報学概論	・気象と水の科学 ・環境気象学概論 ・環境水文学概論		
選択必修科目 選択科目	生物地球コース	・生態系の機能 ・植物と環境 ・動物と環境 ・環境生物学実習 ・環境地質学 ・環境地形学 ・固体地球環境化学 ・地圏環境学実習 ・生物圏の歴史と人間活動 ・生物の多様性 ・生物間の相互作用 ・防災地圏環境学 ・固体地球物質環境学 ・環境同位体化学 ・環境分析化学	・マッピングデザイン ・地図と測量の科学 ・国土と人間生活 ・都市のアメニティ ・自然災害のメカニズム ・ジオインフラマテリヤル ・情報社会と倫理 ・情報文化と知的所有権 ・リモートセンシング ・環境経済学 ・環境関係法規 ・地域環境行政 ・人間活動と物質循環Ⅰ(大気と水の循環) ・人間活動と物質循環Ⅱ(生物生産と生物圏の物質循環) ・人間活動と物質循環Ⅲ(人間活動と環境汚染) ・環境統計学実習 ・環境情報処理実習 ・リモートセンシング実習 ・物理学Ⅰ ・物理学Ⅱ ・物理学実験 ・化学Ⅰ ・化学Ⅱ ・化学実験 ・生物学Ⅰ ・生物学Ⅱ ・生物学実験 ・地学Ⅰ ・地学Ⅱ ・地学実験 ・環境情報学Ⅰ ・環境情報学Ⅱ ・マルチメディア表現技術 ・プログラミングの基礎(実習) ・情報システムの構築と応用 ・画像情報処理の基礎 ・空間情報システム実習 ・環境情報学演習Ⅰ ・環境情報学演習Ⅱ ・プログラミングの応用(実習) ・熱帯圏の環境 ・氷雪圏の環境 ・乾燥圏の環境 ・環境保全活動実習 ・測量学および実習 ・海洋環境学 ・情報化社会と職業 ・情報産業史 ・情報通信ネットワーク実習 ・情報通信ネットワーク特論 ・シミュレーション技術 ・土壌環境学 ・水資源と水利用 ・環境化学実験 ・土壌環境学実験 ・環境生物学アドバンス ・地圏環境学アドバンス ・環境情報学アドバンス ・環境水文学アドバンス ・環境気象学アドバンス		
	気象・水文コース	・水文環境学 ・陸水環境学 ・環境水質化学 ・環境水文学実験 ・気候・気象学 ・後継気象学 ・大気循環論 ・環境気象学実習 ・水文環境モニタリング ・水文環境シミュレーション ・水文監視とその調査法 ・水質水文学 ・気候変動論 ・微量気象学 ・大気環境モニタリング ・大気環境シミュレーション ・温暖化と酸性雨 ・都市大気環境学			

※所属コースが指定する科目以外の科目を学ぶことでより広い視野を養うことができます。 ※学部間相互履修制度がある学部もあります。詳細は各学部へお問い合わせください。 ※カリキュラムは変更される場合があります。

学科TOPICS

安定同位体比質量分析システム。水素・酸素の安定同位体比と標高との関係を用い、地下水の起源(滲養域)が明らかになります。



国際交流は一生の宝。ベトナムでNGO南遊の会、日本の他大学や現地の学生とともに、マングローブ林の再生活動を行っています。



「チカラがつく」

Point 3

国内・海外の現場に赴き、五感で学ぶ。

4年間を通じて「現場」から学ぶ

地球環境について理解を深めるには、座学だけではなく現地に赴いて現象を直接見て感じることも重要です。本学科では1年次に学年全体で2日間、クラス単位で1日間の日程で自然環境を題材にフィールドワークの基礎実習を行います。2年次では分野単位で、3年次には研究室単位でフィールドワークの経験を重ね、4年次には学びの集大成として、自分の調査フィールドでの調査・分析を通じ、卒業論文を完成させます。



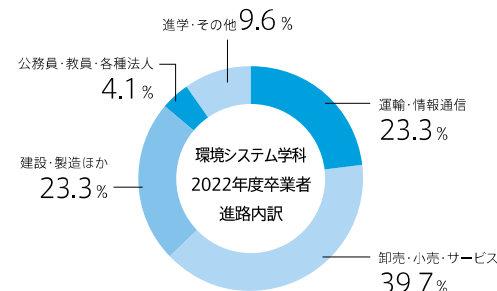
世界規模で環境問題に取り組む

本学科では環境保全活動が行われている海外の現場に赴き、実際に参加しながら活動の実状や課題について学ぶことができる科目を設定しています。近年のフィールドワークでは、ベトナムのマングローブ林の再生活動に参加しました。



環境システム学科独自の就職サポート

地球環境科学部では独自の就職相談室を設けており、環境システム学科での学びの領域に関連深い「環境コンサルタント」「分析・化学」「測量」「情報通信」「土木」等の業種を中心に、企業情報の提供、企業説明会の開催等を行っています。また実務者やOB・OGを招いた講演会・特別講義を開催し、環境科学がどのように実社会で生かされているか、自身のキャリア形成を考える機会を創出しています。



VOICE

学生インタビュー

やらなきゃもったいない!

立正大学は、最高の学修環境です。

環境システムという分野を学ぶにあたり、立正ほど適した大学はほかにないと、私は実感しています。例えば、キャンパス内には研究・実験のための最新設備が整っており、安全面はもちろん、個室で集中できる環境が整っています。さらには熊谷キャンパスそのものが、動植物が多数生息するフィールドとなっており、入学時から気軽に調査へ繰り出すことができます。

私はクマゼミを対象とした研究に取り組みましたが、地理情報システム (GIS) を用いて生息地域を分布マップに落とし込んだり、サーモグラフィーを用いて気候と生態の関連性を調査したりと、大学にあるものは最大限に活用させてもらいました。こうしたツール類を扱う技術は、環境以外の分野でも、将来の選択肢を広げる力になります。皆さんには、好きな動物や植物、または地元等お気に入りの場所はありますか? そういったものを守りたい、未来につなぎたいという想いも、環境システム学科でなら叶えられます。

地球環境科学部 環境システム学科 本庄第一高等学校出身

卒業論文テーマ

- 海洋生物がオリンピック開催による人間活動の活性化にどう影響されるか
- 液化化による噴砂の地表面への噴出再現実験
- 台風接近時における熱中症搬送者数の実態
- ミネラルウォーターの水質と採水地の地域特性との関係
- LiDARによる樹木位置計測精度に関する研究
- 埼玉県におけるアライグマとタヌキの種間関係について
- 群馬県桐生川ダムが付着藻類と堆積物に与える影響
- 最近15年間における黒潮の流路変化が伊豆諸島の気候に及ぼす影響
- 茨城県北部に分布する多様な温泉の水質形成機構の解明
- 稲作農業におけるドローン活用方法
- 遺伝子解析から見たカブトムシの国内移入の是非について
- 関東域における異常な温度発現の要因について
- 外食産業における食品ロスの削減に関する研究
- 大洗沖におけるイワン類の食性に関する研究
- 地表面温度表示アプリケーションの構築と改良
- 湿地植生の移植に関する生態学的研究 ほか

免許・資格

- | 【地球環境専門職】 | 【測量・技術専門職】 | 【コンピュータ専門職】 | 【行政職】 |
|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 気象予報士* ■ 環境計量士* ■ 公害防止管理者* ■ 自然再生士* ■ 自然再生士補(認定資格) | <ul style="list-style-type: none"> ■ 測量士* ■ 測量士補 ■ 技術士* ■ 技術士補 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 情報処理技術者* ■ GIS学術士(認定資格) ■ システムアドミニストレータ* <p>【教員免許】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中学校教諭一種免許状(理科) ■ 高等学校教諭一種免許状(情報) ■ 学校図書館司書教諭(任用資格) | <ul style="list-style-type: none"> ■ 社会教育主事(任用資格) ■ 社会福祉主事(任用資格) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 博物館学芸員(任用資格) ■ 図書館司書 |
- *は資格試験に合格する必要があります。

進路・将来像

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 環境コンサルタント関連企業 ■ 気象予報関連企業 ■ 地質調査関連企業 ■ 衛星データ解析関連企業 ■ 土木・建設関連企業 ■ 測量・不動産関連企業 ■ 化学・生物関連企業 | <ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータ関連企業 ■ システムエンジニア ■ 環境NGO・NPO ■ 官公庁 ■ 各種公務員 ■ 中学校理科教諭 ■ 高等学校理科教諭 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 高等学校情報科教諭 ■ 学校図書館司書教諭 ■ 社会教育主事 ■ 図書館司書 ■ 社会福祉主事 ■ 博物館学芸員 ■ 大学院進学 等 |
|--|---|--|

詳しくはP.35～P.36へ

詳しくはP.37～P.38へ



Point 1

幅広い分野から、知識・情報・技能を得られる。

地域・社会に貢献できる人材を育成

地理学の専門的な知識や技能、広い視野と柔軟な思考力、そして、地域の持続的発展に貢献しようとする積極的な意欲と態度を養うために、立正大学の地理学科では、人文・社会系と自然系を融合させた、4つの幅広い領域から学べる環境を整えています。



1 人文地理学

人口や経済、産業、文化、都市、交通、観光、まちづくり等の地域の構成要素とあわせて、人間活動と地域との関わりを学びます。

学びのキーワード

#人口 #経済・社会 #都市・農村 #産業 #交通 #観光 #景観
#歴史・文化 #地域資源 #地域振興

2 自然地理学

地形や気候、水、植生等の地球上のあらゆる自然現象とあわせて、地域の自然の成り立ちを学びます。

学びのキーワード

#地形 #気候 #水 #植生 #自然災害 #防災 #ハザードマップ
#環境保全 #エコトリスム

3 地誌学

日本と世界のさまざまな地域を対象に、自然環境と人間生活との関係から、特定地域における地域的特色を総合的に学びます。

学びのキーワード

#日本 #アジア #ヨーロッパ #アフリカ #南北アメリカ
#オセアニア #地域研究 #フィールドワーク #地域性

4 地図・GIS・測量

地図の仕組みや地図表現の基本、地表に存在するものの位置や形を正確に計測する測量技法、現地調査で取得したデータを地理情報システム(GIS)に取り込み地図化する方法を学びます。

学びのキーワード

#地理的技能 #地図の読図 #測量技術 #空中写真判読
#地理情報システム #地域データ #主題図作成 #ドローン

約100年の歴史をもつ立正大学の地理学科は、全国の地理学科の中でも最大規模の教員・学生数を誇ります。熊谷キャンパスには地図・専門図書等の資料が充実し、タブレットやGIS環境、最新の測量機器、設備等がそろえられています。

Point 2

フィールドワークを重視した、実践的な学び。

バラエティ豊かな現地調査の機会

1年次はフィールドワークの基礎を学び、2年次からは資料調査・分析の方法、調査計画の立案といった地域調査の手法を習得、3・4年次には実際に現地調査で得られた結果をもとに、図表の作成、分析と考察、ディスカッションをとおしての地域課題の理解等、専門性と応用性を向上。希望者には海外でのフィールドワークを手配する等、豊富な学びの機会を設けています。



社会での働き方を体験・実践できる

学生の希望に応じ、教員とともに地域連携や地域貢献に取り組むプロジェクトも実施しています。過去には、熊谷や日光の地域活性化や防災対策、ネパール地震で被災した学校に世界地図を贈る活動等を実施。取り組んだ成果をまとめたパンフレット制作にも挑戦。これらの体験は、企画立案力、やり遂げる力、意見を発信する力等、社会での活躍に役立つ能力につながります。



カリキュラム

卒業基準単位数: 126 教養的科目: ≥28 専門科目: ≥78

※2024年4月1日入学者の場合。 ※教養的科目および専門科目の必要最低単位数以上を修得し、卒業基準単位数を充足します。

	1年次	2年次	3年次	4年次
	地理学と地図の基礎を修得 「地理学では何を学ぶのか?」等、多彩な講義と実習をとおして、学修の意味と意義を考えます。	地理学のさまざまな専門の基礎を学び、フィールドワークで地域調査を行うためのスキルを身につけます。	専門性、応用力を向上させる 発展的・応用的な地理学を修得し、地理学の専門家としての力をつけます。	卒業研究に全ての学びを集約 修得した知識や技術を駆使して卒業研究に着手。現地調査をもとにした分析を行い、研究成果について議論します。
必修科目	〈学科基礎科目〉 ・基礎地図学および実習Ⅰ ・基礎地図学および実習Ⅱ	〈学科基礎科目〉 ・地理学基礎セミナー ・フィールドワークⅠ	〈学科基礎科目〉 ・地理学セミナーⅠ ・地理学セミナーⅡ ・フィールドワークⅡ	〈学科基礎科目〉 ・地理学セミナーⅢ ・地理学セミナーⅣ ・卒業研究
選択必修科目		〈学科基礎科目〉 ・地域調査法1(地形) ・地域調査法2(水文) ・地域調査法3(防災) ・地域調査法4(観光) ・地域調査法5(交通) ・地域調査法6(都市) ・地域調査法7(まちづくり) ・地域調査法8(海外) ・地域調査法9(地理教育) ・地域調査法10(自然地理)		
選択科目	〈学科基礎科目〉 ・人文地理学概論 ・自然地理学概論 ・日本地誌 ・アジア・オセアニア地誌 ・ヨーロッパ・アフリカ地誌 ・南北アメリカ地誌 ・地理学基礎巡検 〈学部共通科目〉 ・最上と人間生活 ・都市のアメニティ ・地図と測量の科学 ・マッピング ・地球の資源とエネルギー ・地球の構造と進化 ・地球環境システム論 ・生活環境の科学 ・情報社会と倫理 ・環境経済学 ・ジオインフォマティクス ・自然災害のメカニズム	〈学科専門基礎科目〉 ・デジタル情報の基礎 ・地理情報科学の基礎 ・地域アーク分析 ・地域自然情報の活用	〈学科専門発展科目〉 ・都市地理学 ・工業地理学 ・観光地理学 ・地形学 ・水文学 ・自然計測実習 ・地域文化論 ・地域と民俗 ・首都圏の環境と生活	〈学科専門実践科目〉 ・地図画像処理論および実習 ・写真判読法および実習 ・地図表現と地図作成 ・海外調査法およびフィールドワーク1・2・3
		〈学科専門発展科目〉 ・都市と地域の計画 ・人口と地域 ・地域景観の保全と復原 ・流通地域論 ・人間活動と土地利用 ・地域開発と環境両立 ・観光資源とまちづくり ・自然災害と地域 ・災害・防災地図の作成と利用 ・自然公園とエコトリスム ・自然環境とまちづくり ・地域の自然誌 ・地域研究1(アメリカ) ・地域研究2(ドイツ) ・地域研究3(イギリス) ・地域研究4(オーストラリア) ・地域研究5(フィリピン) ・地域研究6(沖縄)	〈学部共通科目〉 ・地理情報システム論および実習 ・地理情報システムの応用および実習 ・社会科学・地理歴史教育論Ⅰ ・社会科学・地理歴史教育論Ⅱ ・社会科学教育論Ⅰ ・社会科学教育論Ⅱ	〈学部共通科目〉 ・熱帯圏の環境 ・水圏圏の環境 ・北極圏の環境 ・環極圏関係論 ・地域環境学概論

※学部間相互履修制度がある学部もあります。詳細は各学部へお問い合わせください。 ※カリキュラムは変更される場合があります。

交通地理研究室の学生たちが秩父鉄道と協力し、同社情報誌「別冊PALETTE 地理学科と行く! 秩父鉄道の旅 人生はフィールドワークだ!」を発行しました。沿線の観光資源の発掘、取材、記事の書き起こしを実践する中で、座学だけではわからない地域連携の難しさと楽しさを学ぶことができました。秩父鉄道HPで公開中。ぜひご覧ください。



「チカラがつく」
Point 3

学科ならではの、学修サポート体制を完備。

細やかなサポートが可能な「クラス制」

主な必修科目では、少人数に分かれた「クラス制」での授業スタイルを採用しています。全学年に担任教員がいるため、学修面でのきめ細かい指導・サポートが受けられることはもちろん、生活面や就職活動等においても、気軽に相談をしたりアドバイスをもらったりすることができます。



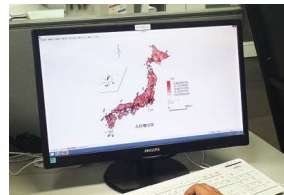
学生同士で助け合う「エクステンション講座」

教員だけでなく、上級生から授業の内容や課題についてのサポートを得られる「エクステンション講座」を開設。上級生は指導にあたることで、説明する力や自身の理解度向上につながります。



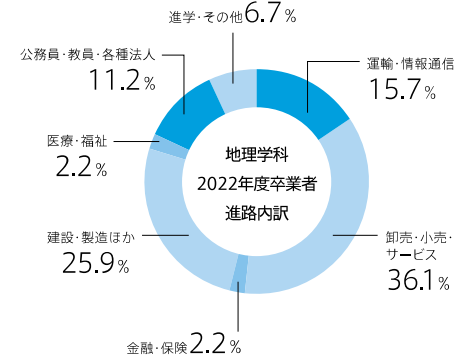
将来に生きる力を伸ばす「スキルアップ講座」

研究をさらに深め、プレゼンテーションの質を向上させるための「スキルアップ講座」を開設。パソコンのソフトウェア、イラストレーターを用いた作図法、統計解析ソフトSPSSを用いた統計処理等を修得できます。こうした専門性の高い技術は、就職活動や将来にも役立ちます。



地理学科独自の就職サポート

測量や地図・GISといった専門分野に加え、行政、教育、観光、運輸、サービス等の幅広い分野で活躍する学科OB・OGによる講演会を実施しています。また、経験豊富なOB・OG、教員による教職キャリア講座や、旅行代理店等での旅行プラン作成、旅行責任管理者を担うための国家資格「**旅行業務取扱管理者資格**」を取得するための、専門家による対策講座を支援しています。



VOICE

学生インタビュー

地理学は、地球上の「理」を学ぶ、すべての土台となる学問。

さまざまな大学の地理学科を調べましたが、立正大学では1年次から専門科目を履修できるという特徴があり、このスタートラインの違いは、4年間の学びの満足度でほかの大学と大きく差が出るかと確信していました。特に1年次から地理情報システム(GIS)に触れられるというのが大きく、私は伊豆半島の地図を制作する作業に挑んだのですが、立正大学でAdobeのイラストレーター等のスキルを磨いていると、もっと見やすくして詳細な地図をつくりたい、観光情報を載せたガイドブックもつくりたいといった意欲が、どんどん湧いてきました。

趣味で旅行に出かけた時も、地理学を学ぶ前は何気ない風景だったものが、あの地形にはどんな役割や歴史があるのか、あの商店街はこうしたらもっと活気つくのではないかと、そんな視点やアイデアが普段からあふれてくるように。目に映るものすべてが地理学のフィールドにある。そう言っても過言ではない、色濃く幅広い学びを得ることができています。

地球環境科学部 地理学科 埼玉県立小川高等学校出身

卒業論文テーマ

- 東京都における公衆浴場の分布と地域社会との関係
- 羽田空港後背地における営業倉庫の立地分布と機能
- 豪雨水害被災地における住民の避難行動メカニズムに関する一考察
- 高知市中心市街地における路面電車利用者の行動分析
- 房総半島小櫃川上流における河床形態からみた穿入蛇行の成因と分布
- 山梨交通電車廃止後の旧沿線部および鉄道施設跡における土地利用
- 比企丘陵の谷津田における冬季の北西風の流入が放射冷却に与える影響
- 新潟県十日町市における素掘り隧道マップに関する研究
- JR川口駅周辺における高層マンションの立地特性
- 武蔵浦和駅周辺地区の再開発事業における土地利用変化と空間利用特性
- 熊谷市南東部荒川右岸における水屋・水塚の分布と利用状況
- 埼玉県東松山市東平地区における梨を活用した観光農業の取り組みと課題
- 富山市における中心商店街の変容
- 鶴見川水系における水文特性と汚濁負荷量推定

免許・資格

- 【旅行専門職】
 - 国内旅行業務取扱管理者*
 - 総合旅行業務取扱管理者*
 - 国内旅程管理主任者*
- 【不動産・測量専門職】
 - 測量士補
 - 測量士*
 - 技術士補
 - 技術士*
- 【教員免許】
 - 中学校教諭一種免許状(社会)
 - 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
 - 学校図書館司書教諭(任用資格)
- 【行政職】
 - 社会教育主事(任用資格)
 - 社会福祉主事(任用資格)
- 【その他】
 - 博物館学芸員(任用資格)
 - 地域調査士(認定資格)
 - GIS学術士(認定資格)
 - 情報処理技術者*
- 地図地理検定*
- 観光英語検定*
- 旅行業英語検定*

詳しくはP.35~P.36へ

進路・将来像

- 地図制作・測量関連企業
- 都市・不動産・コンサルタント関連企業
- 鉄道・運輸・流通関連企業
- 旅行・観光関連企業
- その他サービス業全般
- 各都道府県市区町村役場
- その他各種公務員
- 中学校社会科教諭
- 高等学校地理歴史科教諭
- 大学院進学 等

詳しくはP.37~P.38へ